

## 式辞（学位記授与式）

今年の桜前線の北上は平年よりもやや遅めとのことですが、桜の蕾は日毎に膨らみを増し、春の訪れを予感させる頃となりました。

本日、本学の役員、研究科長、そして本学の関係者の方々にご臨席をいただく中、各研究科において所定の課程を修了し、審査に合格した皆さまに学位記を授与させていただきました。そのうちわけは、博士の学位が31名、修士の学位が348名です。まことにおめでとうございます。

皆さまのこれまでのたゆまぬご努力に大なる敬意を表しますとともに、本日ご列席をいただいておりますご家族の皆さまには、この佳き日を迎えられたことに、心からのお慶びを申し上げます。また、日々の研究活動を支援してこられた指導教員、そして関係の事務職員の皆さまのこれまでのご尽力に深く感謝を申し上げます。

皆さまの中には、37名の社会人学生に加え、22名の海外留学生の方々が含まれています。社会人の場合には、勤務先の理解、そしてご家族の支援なしには大学院への修学は実現しなかったでしょうし、また、留学生の場合には、言語、習慣の違いに加えて学費の工面など、数多くのご苦勞があったことと推察いたします。そのような環境の中で真摯に研究に励まれ、無事、学位を取得された皆さまの喜びにはひとしおのものがあることでしょう。改めて、お祝い申し上げたいと思います。

さて、皆さまの多くはこれから実社会へと巣立たれるか、あるいは、再び戻られるということになるかと思えます。より一段と高い専門知識、そして研究手法を修得された今、それぞれの専門分野において、その能力を思う存分発揮していただく時がやって来たと言えるでしょう。培われたスキルとノウハウを世の中に還元し、ある方はイノベーションの創出に、ある方は地域社会の発展に、またある方は自然共生社会の実現にと、様々な方面でご活躍されることを期待いたしております。

グローバル化の加速する現代社会においては、流通・交通・通信など、あらゆる分野の流れがボーダーレスとなり、特に最近では、製造業を中心に、産業機械から電化製品、自動車まで、私たちの回りのあらゆる「モノ」をネットワークで繋ごうという動き、すなわち、英語では **Internet of Things**、**IoT** と略されます「モノのインターネット化」の動きが加速しています。「機械化」が起きた第1次産業革命、「大量生産」に象徴される第2次産業革命、「自動化」がもたらした第3次産業革命に引き続き、「インターネットと人工知能（AI）による自律化」を特徴とした第4次産業革命の到来です。

この **IoT** の世界では、「モノ」同士が情報を提供し合って活動を最適化し、自らが考えて動くこととなります。今、オックスフォード大学のオズボーン准教授の論文「雇用

の未来—コンピュータ化によって仕事は失われるのか？」が大きな反響を呼んでいます。彼によりますと、弁護士の助手、レジ係、オペレーター、銀行の融資係などをはじめ、現在の仕事の半分近くが AI によって不要となってしまうとのこと。早晩、「人間不要の世界」が訪れるのではないかと戦慄を感じるこの頃です。

このような「超スマート社会」に旅立っていかれる皆さまに大切なのは、さらなる社会変化を予見する中で、自らの強みを改めて見極め、それを将来のビジョンにしっかりと結びつけることでしょう。かの「ターミネーター」ではありませんが、AI に支配されるのではなく、AI をツールとしてうまく利用していく必要があります。

その中で、ある分野でのノウハウを全く別の形で、あるいは別の分野に柔軟に応用する「汎用力」については、まだまだ人間の知性の方に分があります。AI は「ディープラーニング」という手法で効率よく解析サイクルを回しますが、そのサイクルの「きっかけ」を作ることは不得手です。すなわち汎用力の根源である「アイデア」のインプットはわれわれの特権なのです。その意味で、今後は情報を幅広く収集する能力、いわゆる「アンテナ力」をいかに培っていくかが大きな鍵になってくると思います。専門分野が細分化されていく中、好奇心を持って他分野の集会にも出入りし、他領域、他業界の専門誌にも目を通す努力が肝要です。思いもかけないところに「ヒント」が見つかり、行き詰まっていた仕事の視界が突然に広がることからです。

私が専門とする眼科の領域でも最近面白い話がありました。実は、網膜剥離という病気の治療では、剥離した網膜を押さえつけて直すのに、体内で分解しづらい眼内充填物質（いわゆる高分子ゲル）が必要とされていたのですが、なかなかいいものが見つかりませんでした。ところが、高分子ゲルの研究をしていた全く別の分野の教室では、「一定期間で分解するゲル」を一生懸命作っていて、副産物である「分解しにくいゲル」がたくさん出来て困っていたのです。そうした中、ある学会での出会いを接点に眼科の「unmet needs」とこの「unnecessary goods」とが結びつき、Nature に論文化されるとともに、新たな眼内充填物質の開発へ話が進みつつあると伺いました。これも人間の持つ「アンテナ力」の成果です。是非、皆さま方も、優れた「アンテナ力」をもとに、新しいアイデアの創出に積極的にチャレンジしてください。

最後になりましたが、愛媛大学大学院で学位を取得された皆さまの門出を改めてお祝いたしますとともに、今後の活躍を心より祈念し、式辞といたします。

平成 29 年 3 月 24 日 愛媛大学長 大橋裕一